

## 第46章 日本の巨石

高尾宏道・訳

著者 Hugo Jenks 記す；

1. That the copyright remains with me, in other words there is no transfer of ownership of intellectual property.
2. The following text is included, in Japanese and in English:  
< This is an extract from "The Bones of Stonehenge" by Hugo Jenks.  
It is available as an e-book from [www.brontovox.co.uk](http://www.brontovox.co.uk) >

1. 著作権はヒューゴ・ジェンクスに属する。即ち知的財産の所有権は移動しない。
2. 以下の文を日本語及び英語で挿入すること；  
<本稿はヒューゴ・ジェンクス著「ストーンヘンジの骨格」からの抜粋である。  
「ストーンヘンジの骨格」"The Bones of Stonehenge" はウェブサイト [www.brontovox.co.uk](http://www.brontovox.co.uk) からイーブックとして購入可能。

### 第46章

## 日本の巨石

日本には500を越える巨石遺跡がある。ストーンヘンジのようなものは他に世界のどこにも存在していないが、日本にはその他の多くの巨石が存在し、英国の巨石と何らかの類似性を有している。それらは古墳やストーンサークルを含む。興味深いのは新石器縄文人の墓である。海岸近くに集落がある場合には、貝は食料の主要部分を占めていた。重なり積もった貝殻は時間が経過するにつれて非常に大きな山になったであろう。死者がこれらの山に埋められて墓が出来たと思われる。この条件下では、人骨は陶器標本のように保存状態は非常に良好である。世界で発見された陶器の中で最も古く、よく知られたものはまさに日本で出土した。最

古の陶器で顕著なのは1万6千年前のものである。(訳注：……)の「陶器」は厳密には「土器」である) 世界中の多様な場所に分布するおびただしい巨石をどうやって説明することができるだろうか？平たく言うと、人間の性質には共通項があつて、それがこれらの構造物を造る必要性を生むということだ。限られた範囲の材料を使つての最も耐久性のある表現態様は、大きな石を立てて文様を刻むという方法であつたろう。

この単純な説明が全ての観察事実に対して充分かどうかは、しかしながら、さらなる研究を要する。広い範囲にまたがつて彫られた文様に一貫性が見られるならば、共通の文化と信仰を指摘しなければならぬ。これと相反する論考として、彫られた形状の多くが渦巻、ジグザグ、三角形、ダイア形等単純なものであることから、これらは簡単に加工できるので直接の連携は必

要がない、という考えがある。

## 年代

日本における考古学の記録は先史時代からの出土品の量及び質において比類のないものである。幾十年にわたる大規模な発掘が行なわれてきた。この時期に多く見られるおびただしい貝塚から出土した人や動物の骨及び加工品の保存状態はことに良好である。

日本の旧石器時代は3万年以上の長期に亘って続き、それは約1万6千年前の縄文時代に引き継がれた。その時代に弓矢や土器の使用といった新しい技術がもたらされた。犬を飼うこともこの時代からである。土器が始めて造られたのは世界のどの地域よりも古く、西アジアで使用されるよりもおよそ4千年早

ことに興味深いのは縄文文化で、日本列島北部の北海道から本州中部、四国及び九州さらに南方の琉球列島の沖縄において発見され

縄文時代区分	放射性炭素較正年代 BC	存続期間
草創期	13,680-9,250	約 4,430
早期	9,250-5,300	約 3,950
前期	5,300-3,360/3,500	約 1,670-1,750
中期	3,630/3,550-2,580/2,510	約 970-1,120
後期	2,580/2,510-1,260/1,230/1,220	約 1,250-1,360
晩期	1,260/1,230/1,220-410	約 810-850

ている。

縄文文化の最大の特徴は低温で焼成された土器で、多くの精巧な造りを見せている。

縄文時代の言語は現代の日本語との関連はないものと考えられている。日本語はそれ以後の弥生時代（BC400—AD200）にその萌芽が見られる。

## 土器

縄文文化の特徴は表情豊かな陶芸である。土器は手作りである。巻いて造られ低温で焼成された。縄文土器はその装飾と形状の豊かさが広く知られている。撚糸を使った模様が一般的で、切り込み、圧印や彫刻があり、ひも状の粘土も使用された。土器は漆で赤や黒に彩色されたものもある。

土器は様々な用途に使用された。調理、食物の貯蔵さらに芸術的な装飾などである。また、大きな容器が埋葬用の棺桶に使われることもあった。さらに、非常に多くの土器装飾品、イアリングや儀式に使われたものもある。

表面の装飾を分析することは可能で、思想と品物が一つの地域から他へ伝播した痕跡を追跡することも出来る。人類や動物そして抽象的な形状の複雑な姿形は、彼らの社会と宗教的な意味を理解し解明しようとして、研究されてきた。明らかなのは象徴シンボルの豊富さであり、地域間において著しい多様性を見せる。

非常に多くの粘土の塑像が発見されており、それらは個人的な宗教儀式の一環として使用されたと考えられている。塑像に関する最近の研究では、それとは異なる解釈がなされている。Watanabe Hitoshi(2001)は、ユーラシア及びシ

ベリアに見られる後期旧石器時代の塑像は、日本の塑像の先駆けだと考えている。旧石器時代の塑像様式は新石器時代の西アジアにおける農作物豊穰を祈る塑像へと進化した。北太平洋地域においては、それらは母神像へと変化した。母神像は地理的に広範囲に分布している。

珍しい形として大きな目玉を持つ塑像があり、その目は眼鏡のフレームに似た丸い環に囲まれている。これらの塑像は一般的なタイプよりも大きく、専門家によって上質の土器で造られている。このような塑像はおそらく年に一個だけ造られたと考えられ、そのために珍しいものとされているようだ。そのほとんどは赤く彩色されている。

## ストーンサークル

日本における巨石文化は前期縄

文時代、即ちBC約5,000年から存在した。巨石記念物の規模は、例えばフランスのカルナック巨石配列あるいはストーンヘンジよりも小さい。初期のストーンサークルは長野県に発生したが、後になつて精巧な例が東北地方と北海道で発見された。何百年もの間に進展した結果、いくつかは二重あるいは三重の同心円を形成するものもある。直径は通常30〜50メートルである。

青森の小牧野ストーンサークルに使われた石は細長い形状のものが採用されている。ストーンサークルの周辺にはいくつかの柱穴がある。石は山の頂上を向いているようで、年間のある特定の日に、太陽が石の指す山の方向から昇るといふことはカレンダーとして使われたことを示唆している。ストーンサークルに対して一族の儀式が行なわれたようであるが、一方で粘土の塑像は個人的な儀式を示唆している。

後期及び晩期縄文期においては、ストーンサークルに伴つて墳墓が発生している。副葬品はそれほど多くはないが、土器の容器、矢じり、石棒、短剣等を含んでいる。

後期縄文期の人骨は八戸市の是川・中居遺跡にて発見された。骨は朱色に染められている。一つの身体は長さ155センチメートル、深さ80センチメートルの楕円形の穴に膝を曲げて埋められていた。骨は成人のものであるが性別は判定されていない。同時に発掘された円筒状の木片は、釣に使う銚のような形をしている。

よく知られた万座及び野中堂遺跡は秋田県の大湯にある。ストーンヘンジと同時代かあるいはもっと早いかも知れないが、後期縄文期に属する。直径は40メートル。同心円状になっていてそれぞれが丸みを帯びた多くの川原の石で構成されている。外側の帯は幅約8メートル、内帯は約2メートルの幅であ

る。外帯と内帯の間には8メートルの開けた空間がありそして中心には直径約8メートルのオープンサークルがある。それぞれのストーンサークルは日時計のような特徴があつて、一つの立石がその周囲に放射状に横にした長い石で囲まれていて、それは二つのサークルの間の、遺跡の北東方向の中間部の空いた区域にある。

野中堂にはサークルの南の端にある開口部へと導く通路のように見える二列の配石が見られる。

ストーンサークルの一つは川原石が螺旋状に配置されている。その螺旋は螺旋状星雲の知識があつたことを示唆しており、それ故にその形を地上に再現したことが夜空に深い関心があつたことを示している。

地図上で神奈備山の位置を巨石の位置と関連付けて調べると、驚くべきことが観察される。それらはダイヤモンド形状のネットワークの角

を表すのだ。そして各ダイヤモンドは二つの二等辺三角形を包含している。これは今では絶版の書籍「縄文夢通信」に詳しい。著者渡辺豊和はその後、これと同じダイヤモンド形ネットワークは世界の他の場所にも存在すると述べている。また、縄文の人々は死者の魂はその死後星に昇ると信じていたということを暗示している。そしてそれは又、日本では近年に至るまで信じられているのだ。

日本には列石とストーンサークルを含む、五百以上の巨石遺跡がある。縄文人は何故それらを造ったのであろうか？「勲功祭宴(Feast of merit)」説がその答えになるかも知れない。

## 夏至・冬至の祭祀

秋田の大湯遺跡には二つのストー

ンサークル即ち万座と野中堂がある。これらのストーンサークルは夏至における日没の方角を指すように建設された。夏至及び冬至における日没を指し示す配列の例は他にも沢山ある。そしてこれに春分あるいは秋分の日が加われば明らかにカレンダーができる。

縄文カレンダーは日本のあらゆる地域に存在するが、好例が中央高地にある。(長野の阿久津遺跡と上原遺跡)

ストーンサークルは村落の墓地としての重要性があり、先祖崇拜の儀式の場であったのだろうと考えられている。そのような聖地は盆祭りとは彼岸の古代の形を示すのである。それは、帰省習慣は縄文時代から存在していたかも知れないということを示唆している。

縄文遺跡の植物と動物の遺物を調べると、縄文人は年間を通じた季節ごとに多様な資源を活用することに長けていたことが分かる。最近

の発見によると、縄文人は夏至・冬至と春分・秋分を認識していた。計測は、年間を通じて異なった時期に、ストーンサークルあるいは石組み越しに日の出と日の入りとを普通に観察する方法によっている。

古代の日本人は、時間それ自身が年老いて衰えそして死ぬ、という概念を持っていた。彼らは悪い業が積み重なって時間を汚染し、そしてその気、即ち活力を衰えさせると考えた。その修復は年の終わりの清めの儀式によって行なわれた。

この儀式を行なうことによつて、時間は新年の初めに全ての以前の活力を伴って再生すると信じられた。そのひとつは古代から引き継がれてきた。元日に井戸から汲み上げた若水なる最初の水を一家の長男が飲む。山の水、泉の水、そして井戸水には再生した時間のエネルギーが吹き込まれていて、その水を飲む者に新しい活力を与える。

六月の下旬、時間は再び衰えそ

の活力を失い、再生のための大掛かりな清めの儀式が要求される。年末と六月末の清めの儀式の後、まれびと稀人即ち神々及び祖先の霊が、要は二つの新年の最初の週にその子孫のもとを訪れる。

時間が再生するこの期間に、神々と先祖そして人間である子孫とが互いに一つになることができる。古代の人々は神々と祖先の魂のために磐座即ち聖なる石を用意した。稀人が来てその時だけ人々は、稀人に指定された場所に磐座を造ったのがその経緯である。神々及び祖先は常に、毎年同じ時期に同じ方角から同じ場所に到来したのである。イースター島のモアイ像もまさに同じ役割を持っていたと考えられている。

中国に目を向けると、「陽」は年間を通じて昼が最も長い6月22日の夏至の前後にそのピークに達し、その後衰弱が始まる。「陰」の期間

は夏至から冬至までの間である。「陰」は12月22あるいは23日の冬至の日にそのピークに達する。その後昼は長くなり始め我々は「陽」の期間に入る。これは冬至に最も近い水の要素の日である。「陰」の期間は夏至に最も近い火の要素の日に始まる。儒教によると、勉学を通じて完全な徳と知恵の状態を追求することは「登山」という言葉に喩えられる。換言すれば、勉学は自己に有益と信じられる物事の知識の着実な積み重ねを伴うということである。

この概念と並行して道教の「下山」の考えが存在する。即ち、道(タオ)を修めることによつて日々行為を減ずることを追及する。ここにおいて、人は地位、名誉そして人間の全ての欲望を削ぎ落とすことを追求する。そうしてそのような全てから開放され、無行動の境地に達したとき、「何もしないことすら存在しなくなる」。かくして我々は

宇宙と一体になる。何かをする行為を減ずることによつて逆説的に可能となるのだ。

この儒教と道教の概念は陰及び陽の期間において並行して存在する。かくして人間は、これら二つの宇宙の真理を反映した、儒教と道教とが教える各半年に分かれた一年という期間を評価することができるとだ。

## 安閑

安閑石は日本最大の湖である滋賀県の琵琶湖の西側に位置する。安閑神社の境内に簡単な雨よけの屋根に覆われて大切に保存されている。大きさは高さ約1メートル、幅約1.4メートルで、ほぼ矩形形状をしている。最大の特徴はその表面に、象形文字あるいは古代文字とも云える岩刻文様が浅く刻まれ

ていることである。

安閑石に関する資料や伝承はほとんど残されていないのだが、その乏しい資料を基にその出自をたどってみよう。この岩は河原で発見されたという伝承があり、そしてその当時小川の架け橋として使われていたという。

20世紀初頭当時の滋賀県庁職員が調査に訪れ、彼らの決定により、安閑神社の境内へ運び込まれ、そこに安置された。さらに古代の歴史へ旅してみようとするとき、いくつかの疑問が生じるが、この岩は数奇な運命を辿ったのではないかと気がしてならない。

河原に放置される前は一体どこにあったのか？何に使われたのか？どこでいつ文様が刻まれたのだろうか？

ある研究者はその概観から、古墳の一部であったのではないかと推論する。

安閑神社は古代の安閑天皇(6

世紀)を祭祀している。この時代は古墳時代(3〜7世紀)と呼ばれており数多くの古墳が建造された。敵によつて破壊された古墳が戦場に放置されその一部が長い間川原に残された、と想像することも出来よう。しかしながら、確かなことは何も分からない。

最大の謎がここに残されている。この文様は何であるか、何を意味しているのか？いつ刻まれたのか？これらは明らかに現代使われている日本の文字ではない。ほとんどの日本人は、漢字が中国から輸入されるまで日本に文字はなかったと考えている。ところがある歴史学者は、それ以前に古代の文字体系が何種類か存在していたと主張している。ホツマ文字はその一つである。そして安閑石の文様のいくつかはホツマ文字に似ていると指摘されている。ホツマ伝えとは、遙かな古代からの神話伝説と歴史を織り成す膨大な量の叙事詩とされる。しかしなが

ら、ホツマ伝えは他の竹内文献などの古史古伝と同様に、後世の偽書ではないかという見方をする人もいる。また、これらの古史古伝は古事記、日本書紀を除いては大多数の人々からは無視されている。

それはさておき、このホツマ文献はこの地の古い神社において発見されたと伝えられる。とすれば、安閑石と、古墳時代の安閑天皇が祭祀されている安閑神社と、この地に伝承されたホツマ文字との関連性が浮かび上がってくるようだ。しかしながら、この検討は資料が乏しいために、ここにきて暗礁に乗り上げる。安閑石の背後に隠された歴史は人々に知られないまま残されているのだ。

安閑石に関する以上の記述は高尾宏道の提供による。感謝申し上げます。

次の写真は日本の滋賀県にある安閑石である。渦巻き状と矩形の文様がはっきりと認められる。しか

しよく見ると、「矩形」はじつは直線部を伴った渦巻きに見える。比較的認識しやすい二つの例では、これは外側から内側に向かって時計方向に巻いている。もしもストーンヘンジの文化との関連があるとすれば、内側に向かう時計方向の渦巻きは死を意味する。

矩形状の渦巻きの下にジグザグの線があり、そこから沢山の曲線が立ち上がっている。曲線の一つは一方方向へ、他は反対方向への渦巻きとなつて消えている。単純に考えると、これは植物の葉の成長を描いているようにも見える。しかし、矩形の渦巻きとジグザグの線は極めて抽象的な形状であるから、渦巻きの曲線も抽象的な意味があるのかもしれない。以前の章に見られるように、ジグザグの線は稲妻と雷鳴を表している。神の言葉は雷鳴のごとき声で届くのだ。



安閑石

写真(C)高尾宏道

英国で発見された非常に大きな渦巻きは時計方向に巻いていて、中心に向かう道筋は死を表し、中心から外側に渦巻き道筋は生を表すようだ。日本のこの巨石の場合、曲線は時計方向の渦巻きと反時計方向の渦巻きの中でそれぞれ消えているので、この考え方は変わるかもしれない。英国と日本との間には非常に遠く離れているが、多少の意味の相違が生じるのは驚くには当たらない。しかしそれでも、二つの方向は善と悪、陰と陽のような両極にある一対のものを表しているのかもしれない。このように象徴的な解釈をすると、エイヴバリー・コーブのエデンの園の石にもっとはつきりと示されるお馴染みのストーリーが想起される。

これは日本の巨石研究のこの段階における単なる推論的な見方である。とはいえ、この石の下部に多くの水平の線があるが、蛇に似てはいないか？

もう一つの興味深い描画が福岡県の古墳の入口の石に描かれている。多くの三角形である。やはり単なる偶然の一致かもしれないが、対になる二等辺三角形の端が一致してダイヤモンドの形を形成しており、これに似た三角形はアイルランド共和国のニューグレンジにある縁石にも見られる。

日本の巨石に関する簡単な検討を終えるに当たって、石舞台古墳の巨大な石にごくくすかに刻まれた多くの文様を見てみよう。

### 石舞台

この驚異的な古墳の入口の巨石を調査した。石の表面は文様に覆われているけれども、英国における文様と同様に、それが何であるかが分かるまではある程度の時間を必要とする。

その場の各詳細が常に分かるとは限らないが、一般的には、認識すべき主な特徴に対する十分な文様の痕跡があるのだ。

ここに示される写真は英国で発見されたものと著しい類似性を有している。だが、文様のスタイルは明らかに異なっている。根本的な意味および関連する特徴は同じである。

私はこれがその事例だと期待していたが、詳細を検討するほんの二番目の巨石記念物に出会うことは大変喜ばしい。それは非常に広範囲に分布する遙かな古代文化の源流であることを示している。日本には非常に多くの巨石遺跡があつて、それを研究する熱心な組織があることから、世界的な巨石への理解が急速に広まるであろう。

写真は石舞台古墳の入口の石である。写真には、刻まれた形をなぞった線を付加してある。この石の検討は短時間で行なつたので、今の段階では一番明白な文様を浮かび上

がらせていることをお断りしてお



石舞台古墳 写真(C)高尾宏道

上側の石の上部には女性がいる。彼女は持ち上げられているところだ。英国の文様との整合性があるとするならば、彼女は死者で天国へ持ち上げられていることを示している。古墳に彫られた文様を調べることは適切であり、非常に良く似た例が以前の章に記述されている。それは英国の五五百年前の古墳、ペントレ・アイヴァンの入口の石に彫られた文様である。

女性の左側に動物の文様が彫られている。再び、英国の文様との類似性があるならば、この動物は熊であろう。この動物の象徴的な意味は、死者の魂の守護者であることを以前の章で述べた。若い熊は強力な守護者である。

熊の左側に非常に大きな頭がある。ぎよろ目玉をしていて、多量に発見された縄文期の素焼きの小像に良く似ている。他の類似点は、鼻がほとんど描かれていないことである。

大頭の前にはダイヤモンドの形があつて、その中心に手がある。ダイヤモンド形状は英国の巨石にも多量に彫られているのが発見されている。それで、この描画は明らかに、共通の文化と共有の信仰があつたことを示している。このことはダイヤモンドの隣にあるものによっても確かめられる。それは竜である。

この竜の特徴はその長い首である。しかしその形は英国の竜とはいささか異なる。この竜は爪のある前脚を持つているように見える。それに対して英国の竜は前脚としての羽を持ち、爪があるのは後脚だけである。これはしかし些細なことである。重要なのは、竜がこの場のこの場所に描かれていることに極めて妥当性があるということだ。

上部の石の底部右側に、椅子に座っている人がいる。無数の蛇が彼に巻き付いている。ここにも英国の文様との一貫性がある。

この場面での解釈は英国で発見



された数々の類似した文様の場合とまったく同じである。神の役は常に最も大きく描かれる。従って左側のぎよる目玉をした大頭がそれである。我々はぎよる目玉の意味を、強力な視力を持つ全てがオーブ的な存在ではないかと理解し始めているようだ。

竜は神の手に打たれ、投げ倒されている。ダイヤモンドの形は、その手が神聖なものであることを示す。

底部右側には、暗黒世界を支配する、召使として蛇を従えた悪魔がいる。

石にはさらに文様が彫られているようだが、さらなる検討が必要である。

最後に、彫られた面は、やがてもっと後の世になつてから「なぞった」ものかもしれない。なぞった所は竜が人間の赤ん坊を食り食っているように見える。それは上部の石の淡い緑色の部分にある。竜の首は右

側から曲がついて、その頭は中心よりわずかに下にある。赤ん坊は石の下の方で仰向けになっている。緑色は苔のようだが、石の表面をなぞったか何かの処理をされた部分が苔の生育を助長したかのように思える。

日本の巨石にもっと多くの文様が発見されることが望まれる。そうなれば日本並びに世界各地における巨石文化人類に対する理解を深める機会がもっと活発になる。縄文文化の詳細は国際縄文学協会(IJCC)のウェブサイトが推奨される。本章の多くはこのサイトから得た。(www.jomon.or.jp)

日本の巨石の英国との関係を一れまで述べてきた。それは、一部の古代宗教的信条は、竜の首が下を向くか上を向くかのような僅かな違いはあるものの、広範囲に及んでいることを示している。後代、いつても古代には違いないが、イスラエルと日本との間に関係があったとい

う考えはとても興味深い。ウェブサイト「古代イスラエル人(ユダヤ人)は古代日本に来ていた」

(www2.biglobe.ne.jp/~remnant/ngindex.htm)は興味をそそる読み物である。日本の宗教儀式とユダヤ教との間には、単なる偶然の一致を除外してもなお、多くの類似点がある。さらに日本神道の神社の配置はイスラエルのユダヤ神殿と非常に良く似ている。BC722年アッシリアに捉えられた後、イスラエル王国の失われた10種族のうちの1部族が、その後散りじりになりながら、はるばる日本までやって来たと言われる。巨石の建立は元来はユダヤ教の本流を占めるものであった。(その後偶像崇拜に陥ったが) ヤコブは神を崇拜するための石柱を立て、そしてその上に酒を注いだ。古代日本においても巨石が建立された。ウェブサイト「古代イスラエル人(ユダヤ人)は古代日本に来ていた」にもその類似性が述べられている。

モーゼもまた12本の石柱を建てた。

竜の概念は古代広範囲に渡っている。G. エリオット・スミスの「The Evolution of the Dragon」は一読の価値がある。ウェブサイト「Sacred Texts」(http://www.sacred-texts.com/)から無料で入手できる。

了